

当社研究開発に関して技術懇談会を実施

東京理科大学関根教授との技術懇談会

研究所での最先端技術についても視察

東京理科大学関根教授との技術懇談会が3月7日午後、8階東役員会議室にて開催された。同技術懇談会は、当社が抱えている系統運用を中心とした技術的課題に対し関根教授からアドバイスを頂くという趣旨で、平成4年に始まった。その後、年2回の割合で開催してきており、今回で15回目を迎えた。

なお、会議に先立ち午前中には当社技術研究所にてリアルタイムデジタルシミュレータ、超電導、マイクロガスタービン、医療廃棄物処理装置、燃料電池などの最先端技術動向を視察された。関根教授は超電導の応用分野や燃料電池の運転時間などについても熱心に質問され、当社の最先端技術に関して高い興味を示されていた。

今回のテーマは以下のとおりである。

- ・「新しい地震応答解析手法の開発」
(技術開発本部)
- ・「超電導線材の開発について」(技術開発本部)
- ・「回転形潮流制御装置の研究」(技術開発本部)

- ・「振動性雷サージ侵入時の変圧器共振設計に関する調査研究」(中送建)
- ・「長周期電力動揺抑制用並列型PSSの開発」
(系統運用部)



電力リアルタイムデジタルシミュレータを視察する
関根教授(左から2人目)

東京理科大学正田教授、東京大学大崎助教授との技術懇談会

技術開発本部では5月18日午後、正田英介東京理科大学教授、大崎博之東京大学助教授をお招きして技術懇談会を開催した。

同技術懇談会は電力技術を中心とした当社の研究開発に関する課題に対し指導助言をいただく趣旨で昨年開催され、今回が2回目の開催である。

両先生を囲んで、野嶋技術開発本部長、桂川研究企画部長、城後電力技術研究所長 他関係者が出席し活発な意見交換を行った。

今回のテーマは以下のとおりである。

- ・「燃料電池の技術動向と今後の課題」
(電力技術研究所)
- ・「超電導技術の実用化に向けての最近のトピックス」(電力技術研究所)
- ・「直流分減衰時定数の遮断責務に与える影響」
(工務部)
- ・「電気2重層キャパシタを用いた電力貯蔵装置について」(電力技術研究所)

先生方からは今後の研究に有益な意見や情報をいただき成功裏に終了した。



正田教授(写真中央)